

鑄鉄からの脱マンガン・脱クロム技術の開発
(事前評価)

質問

回答

A委員	岩手大学のプロジェクトと比べると反対のことをやっているように見えるのですが。	スクラップから混入するMnを問題視した研究としては、別に反対のことをしているわけではありません。方向性が異なるだけです。岩手大学の技術はMnの無害化技術であり、当センターの研究はMnの除去技術です。岩大の研究もすばらしい研究であると思いますが、無害化技術はリサイクルサイクルをクローズドの方向にもっていかうとする世の中の流れにおいて、Mnはどんどん濃縮されていくので根本的解決にはならないと思います。当センターでは、必ず除去できる技術が必要であると考えております。Crの除去に関しましては、難しいと思いますが、問題になっていることは事実なので、同様の方向で取り組みたいと思います。
D委員	Mnについては岩手大学の方法がよいと思うのですが、Crは本当に除去できるのですか、難しいと思うのですが。	(11/26(火)、担当部長と担当研究員が岩手大学教授を訪問し、「Mn除去技術の研究はHighMn鋼が増えている現状では大変重要である。但し、10発生に伴う廃棄処理が新たな環境問題やコストアップとなるので、その対策や利用の研究も並行して行うことが大切である。」とのコメントをいただきました。)
B委員	鑄物にいつまでこだわるのですか？	自動車関連の大手企業が県に入ってきており、県としても鑄物産業は大切な産業であると考えております。これからも、中小企業の技術レベル向上を考え、研究の支援は大切だと考えております。
D委員	鑄物を研究している人が少なくなっているが重要な産業であると思います。岩手が今後も鑄物研究は続けるべきだと思います。	主要テーマとしましては、鉄に関する研究が目立っていますが、アルミニウム部品を製造している企業さんと一緒に研究をしておりますし、マグネシウム合金に関しましても、支援を行っております。また、生産材料などの新素材にも取り組んでおります。
B委員	Mgなどをやっている企業と一緒にやるなど、特色を出してやっていくべきではないかと思うのですが。	
D委員	マグネシウムやアルミニウム部品も、溶けた金属を金型に流すダイキャスト法によって成形されたものは鑄物です。型を使って成形するといった広い意味ではプラスチックの射出成形も鑄物です。鑄物技術はものづくりの基盤技術であり、今まで通り、岩手県の特徴的な技術として今後も研究・支援を続けるべきだと思います。	